

〈送信者〉

財団法人 四万十川財団

TEL : 0880-29-0200

FAX : 0880-29-0201

E-mail: office@shimanto.or.jp

URL: http://www.shimanto.or.jp

四万十川最上流、民話が語り継がれる神楽の町で “津野町^{よしゅうの}芳生野”

清流通信読者の皆様こんにちは！

今回の清流通信は四万十川源流点のある津野町からです。

★ 津野山文化 ★

四万十川源流域の津野山地域（津野町旧東津野村と栲原町）には、約700年にわたりこの地を統治した津野氏が伝え、そして守り育ててきたという、独特の文化があります。

津野山文化と呼ばれるこれは、交流の限られていた山間地の地域色と、都や伊予・土佐の他地域よりもたらされた文化が交わったもので、神楽をはじめとする信仰文化や民俗芸能、厳しい山里の暮らしを支える農耕文化や生活文化など、独自の発達を遂げてきたものが多く見られます。

その津野山文化継承の地、芳生野下野地区は、津野町役場西庁舎から四国カルスト・天狗高原方向に1kmほど北に入ったところに位置し、四万十川の第二支流北川川がその中心を流れ、東側には四万十川の源流点がある標高1336mの不入山が迫っています。地区には多くの神社仏閣があり、山をまつり、川を治め、自然と共に暮らしてきた日本の伝統的な景観が、その文化と共に今なお残っています。



四万十川支流、北川川が中心を流れる、芳生野下野地区。



“天の川”の北川川に渡された『たなばた様』

★ セタまつり ★ — 北川川にかかる “たなばたさま” の橋 —

毎年、月遅れの七夕の日（8月7日）、この北川川に、天の川に渡された橋のごとくに架かる“たなばたさま”があります。この地域に伝わる、35mの藁縄に飾られた『たなばた飾り』です。

前日の8月6日夕方7時、この地域の5軒の家が集まって七夕様の準備をします。藁縄をない、二頭の藁馬（雌雄）を編み、彦星の太刀と織り姫の糸巻き、五色の短冊を作り、季節の野菜（ナス、トウモロコシ、里芋の茎等）、花（オニユリ、おみなえし）を飾り、できあがった七夕飾りの前で直会（ナオライー共飲共食儀礼）をします。そして当日7日の早朝、縄飾りを北川川に運び川に渡し、飾り付けが終わったら、全員で無病息災・五穀豊穡・祈願成就・地域安全を祈り、祭事を終えます。

かつては、この地区だけでなく周辺の各地区にも同様の行事がありましたが、現在ではほとんど見かけることがなくなりましたと言われます。お話を伺った今年の当屋の上岡正好氏も、「この土地に伝わる行事だから出来る限りは続けていきたいし、次の世代へ、継承者につないでいきたい。」と語っていました。

なお、この“たなばたさま”は、取り外すことなく自然に任せ置いておくということですから、8月7日からしばらくの間は、北川川に架かる美しい“たなばたさま”をご賞頂けそうです。

★ 清流と風と歴史に会えるまち津野 ★

また“たなばたさま”が架かる北川川の上流には、沈下橋の原型と言われ、歌人の俵万智さんによって『一本の丸たん棒に始まる橋の歴史を思う八月』と詠まれた『早瀬の一本橋』があり、秋には津野山古式神楽が奉納される諏訪神社や、境内に大きな枝垂れ桜があり願い事が良く叶うといわれる願成寺など、重要文化的景観に指定された田園の穏やかな風景が広がっています。そして、幕末の志士たちが駆け抜けたと伝えられる『脱藩の道』が走る丘陵には、この時期ホタルブクロの白い花が咲き、北川川の清らかな水には今年は豊漁と伝えられる鮎が上ります。

皆様も、この夏は暑い日常から少し離れて、『清流と風と歴史に会えるまち津野』を訪ねてみませんか？



ホタルブクロの花が夏の到来を告げる



沈下橋の原型：早瀬の一本橋